

NO : 274
2021/ 10

パーキスターン

アフガニスタン：和平努力とタリバンの復権
—国際社会の役割—

山本忠通

パキスタンにおけるイスラーム宗教勢力 (3)

松田和憲



カラーチー潮騒記 2
松田和憲



〈パキスタンの山〉登山の記録
ルブガルサール (7,200m) 2021

川崎浩史

◆ 目 次 ◆

アフガニスタン：和平努力とタリバンの復権 —国際社会の役割—	山本忠通 (1)
パキスタンにおけるイスラーム宗教勢力 (3)	松田和憲 (9)
《パキスタンの山》登山の記録 ルプガルサール (7,200m) 2021	川崎浩史 (13)
カラーチー潮騒記 2	松田和憲 (21)
海外文化セミナー・パキスタンが開催されました	(24)
人と食、それは愛。そしてパキスタン (その47)	シャー真理子 (26)
パキスタン・ニュース	(27)

パキスタンにおけるイスラーム宗教勢力 (3)

松田和憲

パキスタンのデーオバンド派とターリバーンの関係性

2021年8月以降のアフガニスタンにおけるターリバーン復権とその動向について世界中が注目している。ただパキスタンがアフガニスタンのターリバーンを支援しているという公然の秘密は、前ガニー政権末期のアフガニスタン・パキスタン関係の悪化⁽¹⁾やターリバーン復権後の反パキスタンデモ⁽²⁾が起こった主な要因として広く知られている。パキスタン政府や軍統合情報局 (ISI) は1979年から始まる対ソ連戦争以降、アフガニスタンの多様な勢力に支援を行ってきた⁽³⁾。2021年9月4日にはファイズ・ハミード軍統合情報局長官が「アフガニスタンの平和と安定を模索するため」カーブル入りした⁽⁴⁾。その3日後にターリバーン暫定政権が発足したため、アブドゥルガニー・バラダールに代表される穏健派とハッカーニー・ネットワークの指導者であるスィラージウッデーン・ハッカーニー率いる強硬派間の仲裁⁽⁵⁾が、ISI長官の真の目的であったことは間違いない⁽⁶⁾。

軍統合情報局の次にターリバーンへの影響力を有していると考えられているのがパキスタンのデーオバンド派である。そのなかでも深いつながりがあるのは、1947年にハイバル・パフトゥンハー州アコーラ・ハタック (Akora Khattak) で設立されたハッカーニーヤ学院で、ターリバーンの有力指導者がこのデーオバンド派系列の宗教学校で学んでいた。卒業生としてハッカーニー・ネットワークの創設者であるジャラルッディーン・ハッカーニー (1939-2018)、彼の息子でターリバーン新政権の内相代行を務めるスィラージウッ

(1) 『毎日新聞』2021年8月12日「パキスタン、隣国アフガンと関係悪化続く 勢力強めるタリバン」

<https://mainichi.jp/articles/20210812/k00/00m/030/274000c> (以下オンライン記事最終閲覧日2021年10月11日)

(2) 『NHK News Web』2021年9月7日「アフガニスタン パキスタンへの抗議デモにタリバンが威嚇発砲」

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210907/k10013248941000.html>

(3) 山根聡2012「対テロ戦争によるパキスタンにおける社会変容」『現代インド研究』2: pp.38-39.

(4) Yousuf, Kamran. 2021 (September 5). ISI chief visits Kabul to meet Taliban leadership. *The Express Tribune*. <https://tribune.com.pk/story/2318701/isi-chief-visits-kabul-to-meet-taliban-leadership>

(5) 暫定政権発表後もバラダールとハッカーニーの間で対立が起きている。『BBC News Japan』2021年9月15日「タリバン新政権で内部対立か 暫定副首相と閣僚が激しい口論＝情報筋」 <https://www.bbc.com/japanese/58566844>

(6) 2021年10月6日には軍部の人事異動が発表され、ファイズ・ハミード中將は軍統合情報局長官からベシャーワル軍団長に異動した。 Chaudhry, Fahad. 2021. (October 6) In military shuffle, Lt Gen Nadeem Anjum replaces Lt Gen Faiz Hameed as top spymaster, *Dawn*. <https://www.dawn.com/news/1650461>

デー・ハッカーニー (1973?-)、ムッラー・ウマル死亡報道後にターリバーンの第2代最高司令官に就任したアフタル・マンズール (1968?-2016) がいる。

ハッカーニー・ネットワークは2012年に米国国外テロ組織 (FTO) 及び国連制裁対象に指定されているアフガニスタン・ターリバーンの強硬派と知られ、2008年7月の首都カブルのインド大使館への自爆テロ事件をはじめ、以降外国公館をはじめとした数多くのテロ事件への関与が指摘されている⁽⁷⁾。組織構成員は最大1万人でパキスタンのハイバル・パフトウンハー州北ワジーリスタン⁽⁸⁾に拠点を置いていた。また彼らはパキスタン・ターリバーン運動 (TTP) と関係が深いとされる⁽⁹⁾。

ハッカーニーという名前はハッカーニーヤ学院出身者、またはその系列であることを意味している。前回も取り上げたが、イスラーム・ウラマー党ファズルッラフマーン派 (JUI-F) の党首マウラーナー・ファズルッラフマーンもこのハッカーニーヤ学院の卒業生である⁽¹⁰⁾。イスラーム・ウラマー党はアフガニスタンと国境を接するハイバル・パフトウンハー州やバローチスタン州のデーオバンド派マドラサの大部分を管轄しており、ファズルッラフマーンの影響力は非常に強い。彼はターリバーンによるカブルの陥落の翌日に、JUI-Fの公式声明をウルドゥー語で発表している。以下日本語訳である。



JUI-Fの声明文

(7) 「ハッカーニー・ネットワーク (HQN) Haqqani Network」『国際テロリズム要覧 2021』公安調査庁 https://www.moj.go.jp/psia/ITH/organizations/SW_S-asia/HQN.html

(8) ワジーリスタンは2018年まで連邦直轄部族地域 (FATA) であり、9・11以降、過激派が流入した結果、部族地域に社会変容をもたらし、自爆テロが現在でも頻発している。詳しくは以下の論文が詳しい。山根聡 2012 「対テロ戦争によるパキスタンにおける社会変容」『現代インド研究』2: pp.35-57.

(9) パキスタン・ターリバーン運動は南ワジーリスタンに拠点を置き、アフガニスタンにおける対テロ戦争後、アル=カーイダやアフガニスタン・ターリバーンに同調したパイトゥッラー・マフスードらによって設立された組織で、2007年7月にイスラマバード中心部で発生した「赤いモスク立てこもり事件」以降、パキスタン政府や軍部に対するテロ攻撃を現在に至るまで頻繁に行っている。代表的なものとして、2007年12月末に起きたペーナズィール・ブットー元首相暗殺や2014年ノーベル平和賞受賞したマラーラ・ユースフザイの銃撃、2014年12月の軍が管轄するパシヤールワルの小学校襲撃事件が知られている。

(10) 決してハッカーニーヤ学院で過激な武装思想が教えられているわけでない。ただし対テロ戦争時における連邦直轄部族地域での米軍無人爆撃機越境誤爆が数え切れないほど多く発生したこともあり、反米感情を抱くパキスタン人は多い。

アフガニスタン・ターリバーン・イスラーム運動宛の祝辞

慈愛あまねく慈悲深きアッラーの御名によって

パキスタン・イスラーム・ウラマー党はアフガニスタンにおけるアフガニスタン・ターリバーン・イスラーム運動の20年にも及ぶ長き奮闘の勝利に謹んで心からの祝意を表します。

パキスタン・イスラーム・ウラマー党は〔2001年10月7日に始まったアフガニスタンでの対テロ戦争の〕初日からアメリカとNATO連合軍のアフガニスタンへの攻撃は侵略であり、ターリバーン側によるレジスタンス〔活動〕は合法の抵抗であると断定し、アッラーに讃えあれ、非常に多くの有能で誠実〔であった者たち〕の犠牲〔を出した〕後、至高なるアッラーの助けと加護を受けて、ターリバーンの聖戦士たちは祖国アフガニスタンを世界的な権力とその代理人たちから解放しました。

私たちは特にアフガニスタンの民衆を、そしてイスラームのウンマ共同体に祝意を表します。

ターリバーン指導部は数々の勝利を得た後、平和、親善、そして相互理解の方針でもって新しい体制を開始しています。パキスタン・イスラーム・ウラマー党はまさにこれを尊敬の眼差しで見ており、心の底から賛辞を捧げます。

信念とともに彼らは聖戦において至高なるアッラーの助けにより勝利を得たので、私たちは誠意、神の喜びに浸ること、そして思慮とともに良き統治の改善を通じて平和で安定したイスラームのアフガニスタンの設立に成功することを当然期待します。

アフガン国民(qaum)と私たち全員の願いのために、パキスタン・イスラーム・ウラマー党はあらゆる形の協力を行うための準備ができています。私たちは真心からターリバーン・イスラーム運動の指導者(アミール)マウラヴィー・ヒバトゥッラー⁽¹¹⁾(彼に神の加護がありますように)と全ての同志たちにこの偉大な勝利と新しい歴史を刻むことを謹んで心からの祝意を表し、至高なる神に永続と独立を祈ります。

マウラーナー・ファズルッラフマーン
パキスタン・イスラーム・ウラマー党総裁

パキスタンを代表するイスラーム学者でデーオバンド派に属するムハンマド・タキー・ウスマーニー師も同日公式ツイッターで「ターリバーンによる平和的なカーブル入城は

(11) 日本ではハイバトゥラーという名が一般的に使用されているが、WIKIPEDIA ペルシア語版で記されている発音記号を基に読めばヒバトゥッラー、英語表記はHibatullah、日本語訳は「アッラー (Allah) の恩賜 (hibbat)」となる。(Wikipedia Hibatullah Akhundzada

https://fa.wikipedia.org/wiki/%D9%87%D8%A8%D8%AA%E2%80%8C%D8%A7%D9%84%D9%84%D9%87_%D8%A2%D8%AE%D9%86%D8%AF%D8%B2%D8%A7%D8%AF%D9%87) 保坂修司氏をはじめとする一般財団法人日本エネルギー経済研究所・中東研究センター研究員が中心となって執筆を行っている note 記事の10月5日に公開された「ターリバーンを読む」<https://note.com/jimecenter/n/n53dea5a57418> ではターリバーン新政権閣僚の日本における人名表記や発音の違いについて一考している。

630年の預言者ムハンマドによる平和的なマッカ入城（征服）を思い起こさせ、ハイテク兵器でアッラーを信じる力を挫くことはできないことを世界に証明した」旨をウルドゥー語、英語、アラビア語でツイートしている⁽¹²⁾。

以上、パキスタンを代表する二人のデーオバンド派学者がアフガニスタンのターリバーンにエールを送っていることを紹介した。

新ターリバーン政権を担う人物の詳細は不明な部分が多いが、ハッカーニーヤ学院卒業生もある程度入閣している。パキスタンとアフガニスタンの宗教学者間ネットワークを解明することは容易ではないが、今後新たな情報が入手できれば紹介していきたい。

最後にパキスタン政府のジレンマを指摘しておきたい。パキスタン政府は対インド戦略からアフガニスタンのターリバーン政権と良好な関係を築き上げたいと考えているものの、一方でパキスタン・ターリバーン運動（TTP）に対しては断固とした対応を取っている。しかしアフガニスタンのターリバーンとTTPの関係性に劇的な変化が起こっているとは考えにくい。この三角関係⁽¹³⁾が今後どのように変化するのか、その方向性次第でアフガニスタンとパキスタンの平和と安定への道のりが緩やかになるのか険しくなるかが決まってくるだろう。

（まつだ かずのり・京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員）



ムハンマド・タキー・ウスマーニー師のツイート
彼のツイートには1万7千件のいいねがついている

(12) <https://twitter.com/muftitaqiusmani/status/1426999392867950593>

(13) この三者の関係性に加え、近年アフガニスタンで勢力を増している過激派組織としてイスラーム国ホラーサーン州 (ISIL-K) がいる。ISIL-K は 2015 年に TTP の地方司令官がアブー・バクル・バグダーディーに対して忠誠を誓ったことが始まりである。彼らへの対処もアフガニスタンにおける喫緊の重要課題である。